

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	873300529		
法人名	社会福祉法人 清河会		
事業所名	グループホーム 山方		
所在地	常陸大宮市西野内1537-1 (電話) 0295-57-3322		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918	茨城県総合福祉会館内	
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】(平成20年3月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	RC平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道費: 利用分
敷金	有 150,000 円		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2	要介護2	2		
要介護3	1	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	志村大宮病院・根本歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念を「利用者本位、自立支援、利用者の尊厳・自己決定」と全職員で決め、利用者の理解を深め常に向上心を持ち、利用者が安全で安心できる空間で生活できるようにとの思いで支援している。
 利用者は自治会と同じように組織化され、朝礼も利用者の挨拶で始まる。
 市の文化祭には職員と利用者で検討し作成した作品を出品し、その後ホームに飾るなど利用者は日々充実した生活を過ごしている。
 職員の思いやりに満ちたさりげない行動と気遣いで、利用者は穏やかで安心した生活をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点の指摘を全職員で検討し見直しをしている。 介護計画の見直しは行われているが職員が見やすい状態でファイリングするまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を全職員で理解し、自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果は、改善に向けて具体的な検討や実践につなげるための努力をしているが、各種書類の整理が不十分で、不定期の書類について職員の確認がないので、関係書類の適正な管理に努めるとともに職員間で共有することを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会は家族会代表・民生委員・市福祉課・市北部地域包括支援センター職員・管理者・職員2名で構成し2ヶ月に1回開催しているが、ホームの行事に対する報告になっているため、今後協議事項を検討する場となるよう考慮中である。 法人で受託している地域包括センターや市の担当職員と連携を図りホームの実情を伝えたり相談し、ケアサービスの向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族の面会時に利用者の生活状況を伝え家族の意見等を聞いたり、面会に来られない家族には、毎月手紙で利用者の1ヶ月間の状況を詳細に報告し記録を残している。 外部評価の結果をホーム内に掲示し、家族の理解を得る等の配慮を期待する。 苦情受付に関する窓口や担当者の体制を整備するとともに、第三者委員を重要事項説明書に明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の年間を通しての祭事には主催者側から連絡があり、積極的に参加している。 ホーム行事の納涼祭等にも地域の方々を招待し、交流を深めている。 ヘルパー研修や地域の学校の職場体験も受け入れている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、全職員で理念の見直しを話し合った結果、従来の理念を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を施設内に掲示するとともに、全職員が利用者の立場にたった理念を理解し、かつ共有して日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の年間を通しての祭事には主催者側から連絡があり、積極的に参加している。 ホーム行事の納涼祭等にも地域の方々を招待し、交流を深めている。 ヘルパー研修や地域の学校の職場体験も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員で理解し自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果は、改善に向けて具体的な検討や実践につなげるための努力をしているが、各種書類の整理が不十分で職員間の共有の確認と利用者の状況の把握をするまでには至っていない。	○	定期的な報告事項は確認一覧表を作成し職員は内容を共有しているが、不定期な書類についての確認がないので、関係書類の適正な管理に努めるとともに職員間で共有することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表・民生委員・市福祉課・市北部地域包括支援センター職員・ホームの管理者・職員2名で構成し、2ヶ月に1回開催している。 会議内容が施設行事の報告になっているため、今後は協議事項を検討し充実した会議となるように考慮している。	○	利用者は朝礼の司会をする等、組織化されているので本会議にも参加し、本会議のモデルになることを期待する。 外部委員には開催日程を郵送しているが、前回の欠席者に議事録を同封することが望まれる。 協議事項もより充実した内容であることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の担当者と連携し、ホームの実情を伝えたり相談し、ケアサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者のホームでの生活状況を報告している。 面会に来れない家族には毎月手紙で利用者の1ヶ月間の状況を詳細に報告し、記録を残している。 家族へのホーム便りは準備中である。	○	外部評価の結果をホーム内に掲示し、家族の理解を得る等の配慮を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付に関する窓口や担当者の体制を整備するとともに、第三者委員を重要事項説明書に明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職は少なく、管理者は併設の施設間の異動も最低限に抑えている。 異動の際には職員の配置に配慮し、利用者へのダメージを防ぐように努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修の必要性を良く理解し、研修会・講習会には職員を積極的に受講させている。 職員の研修資料が整理されていない。	○	職員の質の向上のためにも研修や講習内容を共有できるよう、資料を見やすく整理することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回同業者の「協議会」を開催し情報交換を行ったり、勉強会や研修会を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の施設が12あるため、利用者が利用前にホームに遊びに来るなどして職員と顔を合わせることで利用者の不安を軽減し、馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員同士で共有し、趣味やレクリエーションを通して利用者に教えてもらう機会が多くなるよう、日々の生活の中で関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場になって日々のかかわりの中で声をかけ、希望や意向の把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用前及び利用時には利用者の「基本情報」をはじめ、暮らしの情報など詳細にわたり収集し、ケアのあり方を検討するとともに家族と話し合っって介護計画を立てているが、全職員が見やすいよう整理するまでには至っていない。	○	全職員が利用者の状況を把握できるよう、利用者情報や介護計画の整理を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況や効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況に基づき、利用者や家族の要望に応じて現状に即した見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設利用者の訪問は受け入れているが、ホーム単独での多機能性は機能していない。	○	併設の施設利用者だけでなく、運営推進会議等を通じて地域住民のニーズ等を把握するとともに、ニーズへの対応を検討することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自の主治医により月1回受診している。 緊急の受診については、家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望により終末期のケアを実践している。 今後も利用者及び家族の希望により、重度化や終末期への支援を運営者・職員ともに受け入れる方針を全員で共有している。	○	重度化や終末期のホームとしての対応の方針を作成するとともに、方針にそった支援を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を尊重しケアに努めている。 個人情報全職員が守秘義務を理解し、外部調査に対しても家族の了解のもと提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながら利用者のペースにそって支援している。 利用者は洗濯物洗いや干しを行ったり、炊事等にも積極的に参加している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは栄養バランスが取れており、利用者は職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。 全介助の利用者にも食堂での食事を支援し、楽しく食事ができるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが利用者のペースに合わせた入浴が可能であり、入浴拒否の利用者には職員は思いやりのある言葉かけで入浴を促している。 車椅子を利用している方には職員2人で入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味を生かし市主催の文化祭に利用者が共同で制作した作品を出品するなど、利用者の生活歴や得意なことを活かせる場面づくりをしている。 利用者の楽しみになるよう、ホームの行事も多彩で野外行事の際の夕食支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は隣接している他施設への訪問等気軽に外出している。 広い敷地で施設内の散歩、日光浴を楽しんでいるが施設が高地にあるため、遠方への散歩は転倒の危険があり難しい。	○	年間の全員で実施する外出だけでなく、転倒防止に留意した利用者の日々の外出を職員間で検討し、実践することが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	急な受診等で職員の人数が不足の場合以外は玄関・門扉に鍵をかけていない。 利用者が玄関を出る時にチャイムが鳴るようにしており、その際、職員は利用者につき添い、行動を束縛しないケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単独での火災避難訓練を月1回、消防署との訓練は年1回併設施設と合同で実施しているが、地域と連携するまでには至っていない。	○	近隣に住宅は少ないが、利用者の安全を考え地域の人々の協力を得るために、防災訓練の実施の際には参加の働きかけを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は残した量を日報に記録している。水分の摂取は時間を決めて1日の必要量を摂れるようにしているが、記録するまでには至っていない。	○	利用者全員の日々の健康状態の把握のためにも、食事・水分の摂取量を職員全員が一目で分かるよう記録表を作成することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは広い敷地で平屋建てのため、居室・共用空間の採光は十分で換気にも配慮している。居間は広く、庭に面して畳が敷かれ大きな炬燵を設置している。建物内の中庭はガラスで仕切り樹木を植えるとともに、洗濯を干すスペースもある。共用空間の壁面には、利用者が季節を詠んだ歌等を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・たんすは備え付けになっている。寝具は利用者が使い慣れた物で安心して寝られるように支援している。原則的に危険物以外の持込みは自由であるが、利用者の馴染みの物品が持ち込まれていない。	○	利用者が安心して過ごせるよう、馴染みの物品の持込みを促す支援が望まれる。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。